



2017年度CSR活動報告書

2018年5月 株式会社エコスタイル



エコスタイル
ー子供たちの未来にエコ電力ー®

はじめに

「子供たちのため、次世代のために環境を守る義務と責任を遂行する」という使命の下、弊社は2015年度にCSR基本方針を策定いたしました。本活動報告書は弊社の取り組みをご報告する3回目の取り組みです。これまで以上に社会に貢献できるよう、そしてより良い取り組みに繋がるよう、活動を公開させていただきますので、ご意見、ご指導をいただきましたら幸いです。

社長メッセージ

弊社は「持続可能な社会」の実現を目指し、太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギー電源の開発や、少額から出資できる再生可能エネルギーファンドの組成・募集を展開し、再生可能エネルギーを次世代に残す取り組みを行って参りました。また、日本において再生可能エネルギーの普及を推し進めた固定価格買取制度（FIT制度）は縮小傾向にあります。2016年4月から電力小売をスタートし、FIT制度にとって代わる様な再生可能エネルギーを普及する仕組み作りにも力を入れております。

国連において持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、また、COP21によるパリ協定の採択など、地球温暖化防止のために温室効果ガス排出量削減による持続可能な社会に向けた取り組みを推奨する動きが広がっております。また、環境（Environment）社会（Social）企業統治（Governance）の“ESG”に配慮した優れた経営をしている企業が重視される流れが明確に出てきました。再生可能エネルギーが地球温暖化といった環境問題解決のために不可欠だということは周知の事実ですが、だからと言って「再生可能エネルギーは世界的な問題」「私たちの暮らしから遠い話」ということでは決してありません。2017年度末、経済産業省は再生可能エネルギーの電源を主力電源と位置付けました。この再生可能エネルギーの普及という世界的な動きをエコスタイルが引っ張っていきたいと思っています。

エコスタイルはエネルギーの分野から、日本が抱える、そして世界が抱える課題に挑戦し続けます。

株式会社エコスタイル

代表取締役社長 **木下 公貴**



CSR活動における基本方針

『持続可能な社会』の実現に向け、「再生可能エネルギーの普及・促進」「環境教育」「ダイバーシティの推進」を基本方針として定めました。これらを実行することで私たちの社会的責任を果たし、持続的な企業価値向上に努めて参ります。

再生可能エネルギーの普及・促進

エコスタイルは、永続的に利用できる再生可能エネルギーを普及・促進させることで、次世代のために環境を守る義務と責任を遂行いたします。また、地域資源を生かした再生可能エネルギー発電所により、地域の更なる発展に繋がる取り組みを行います。



環境教育・教育支援

エコスタイルは、事業活動を通じて獲得した再生可能エネルギーや環境に関する様々な知見を子供たちに伝え、広く社会と地球環境に貢献できる次世代を育成します。



ダイバーシティの推進

エコスタイルは、健全な職場環境の整備とともに多様な人材の採用・育成・登用を行い、様々な価値観を取り入れることで新たな課題にチャレンジし、お客様に満足いただける価値を創造します。



再生可能エネルギーの普及・促進

2017年度の施工実績

エコスタイルの2017年度の太陽光発電所の施工実績は55.6MW。

年間の総発電量が5,838万kWhとなります（1kW当り1,050kWhとして）。

これは・・・

- ▶ 一般家庭12,000世帯あまりの年間電力消費を賄う発電量です（1世帯当たり4,800kWh/年）。



- ▶ 二酸化炭素（CO₂）年間削減量は、約31,600t-CO₂です（0.541kg-CO₂/kWh）。スギの木で換算すると約226万本分の年間CO₂吸収量、石油なら200リットルドラム缶約7万本の削減効果に匹敵します。

「エネルギーの自給自足モデル」の構築に向けて

エネルギーの自給自足モデルとは「それぞれの地域資源を活用して発電し、発電した電気をその地域で消費する」という仕組みです。地域の中で資源と資金を循環させることができ、さらには災害などにより送配電網が遮断されてしまったとしても、再生可能エネルギー発電所を非常用電源として用いることができるので、災害直後の活動拠点としての役割を果たします。

エコスタイルはこのモデルを実現するため、再生可能エネルギー発電所の開発と発電所の設置地域における電力供給を行っています。また、『太陽でんき®』などの展開を通じてノウハウを蓄積しています。

<太陽でんき®>

病院・福祉施設や工場などに太陽光発電システムを設置し、発電した電気を施設で使い、足りない分だけ購入する、という自家消費型のモデルです。

気象予報士の資格を持つスタッフが開発した、AI（人工知能）を活用する予測技術を用いて、気象データを基に太陽光発電予測および電力需要予測を自動的に行います。



<電力見える化ツール>

エコスタイルへ電気を切り替えて頂くことで、電気の使用量・発電量をリアルタイムで確認頂けるツールです。過去の電気使用量と比較することもでき、省エネ意識を向上し、節電をサポートします。

<エコスタイルJ-クレジットクラブ>

国が認証しているJ-クレジット制度（省エネルギー機器の導入等でCO₂などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証するもの）を活用し、『太陽でんき®』によって削減されたCO₂をエコスタイルが取り纏め、クレジット化後、それを使って環境教育や地域貢献活動を行います。

エコの輪 おひさまこっこプロジェクト

太陽光発電システムを普及し、社会にエコアクションを広めることを目的として、幼稚園・保育園等の教育施設へ太陽光発電システムを寄贈する企画、“広めよう！エコの輪おひさまこっこプロジェクト”を2017年度10月より始動いたしました。

10kW程度の自家消費型太陽光発電システムを無償で提供することを通して、環境問題への意識を高めて頂くねらいもあります。2017年度では、青い鳥学園（大阪府松原市）様と協定書を締結いたしました（3月30日付）。これに基づき、パネル容量5.4kWの完全自家消費型太陽光発電設備を設置し、環境教育のワークショップの提供を進めて参ります。



福井県小浜市と連携 一般廃棄物最終処分場跡地で太陽光発電事業

昭和61年から平成21年までの約23年間稼働していた福井県小浜市にある一般廃棄物最終処分場の跡地は、廃棄物が埋め立てられている特性上その活用法が限定的であり、小浜市は跡地の活用法に悩まされていました。また、この処分場跡地のある小浜市仏谷は、過去の災害において道路が分断され孤立した経験があり、災害等の非常時対策が求められていました。

そこでエコスタイルが市有地である処分場跡地を賃借し、エコスタイル仏谷太陽光発電所を設置するプロジェクトをスタート致しました。処分場の名残でもある管理棟を改修し、発電システムと接続させ、管理棟を給電ステーションとして災害等停電時に電力を直接供給できるようにしました。また、管理棟内にポータブル蓄電池を常設することで、日中は管理棟での給電、夜間はポータブル蓄電池による給電を可能とし、停電時における必要最低限の電力を確保します。また、在宅医療機器を使用されているご家庭があれば、在宅医療機器への給電も可能で、ポータブル蓄電池の福祉的活用も期待でき、減災対策につながります。

2017年7月29日に小浜市役所で調印式を行い、福井県小浜市仏谷でオープニングセレモニーも開催。同年10月13日に発電事業をスタートさせております。

加えて市内外の小中学生を対象に環境授業を行うことを目的として管理棟内に環境教育パネルを設置し、環境教育拠点として活用を続けて参ります。（実施した環境教育については次項参照）



環境教育・教育支援

「子供たちのため、次世代のために環境を守る義務と責任を遂行する」という使命を達成するために、より多くの子供たちに自然との共栄の重要性を伝えることができる環境教育プログラムを実施しました。

小浜環境教育

（実施時期：2018年2月8日）

エコスタイルが自社発電所を設置した福井県小浜市内の小学校6年生を対象に、エコスタイル仏谷太陽光発電所（福井県小浜市）の管理棟内壁面の環境教育パネルを用いて地球温暖化の影響や太陽光発電の仕組み、仏谷発電所の減災への役割についてエコスタイル社員が子供たちへ授業を行いました。当日は福井県小浜市環境衛生課にもご協力をいただきました。雪の影響のため発電所見学は中止となりましたが、子供たちは積極的に授業へ取り組み、地球温暖化対策について「まずは自分たちに出来る事を1つでも多く進めていきたい」といった声も多く聞くことができました。

ドリカムスクール

（実施時期：2018年1月～3月 主催：NPO法人JAE）

NPO法人JAEと協同し、大阪府豊中市内の中学校1年生101名の生徒を対象に、通常の授業のような講義形式ではなく、「Stop 地球温暖化！まちの人たちのエコアクションを広げる方法を考えよう！」をミッションにした環境教育を実施致しました。豊中市からも協力を得て地球温暖化の現状や地域での取り組み事例等の講義も併せ、エコスタイルから再生可能エネルギーの普及に取り組む事例を伝え、その学びをもとにミッション遂行のアイデアを出し合うサポートを行いました。最終的には、ミッションに取り組んだ成果についてプレゼンテーションをグループごとに行ったところの総評も行いました。

キャリスタ

(実施時期：2018年1月～2月)

大阪市内の中学校1年生152名に向けて環境教育を実施致しました。実施校が独自で行っているキャリア教育授業の一環で『キャリスタ』という名での実施でしたが、内容的にはドリカムスクールと同様に「STOP! 地球温暖化 まちの人たちのエコアクションを広める方法を考えよう!」というミッションのもと、エコアクションを広めるにはどうすれば良いかを考えて頂きました。本プロジェクトは、大阪市の協賛いただき、環境学習サイト「なにわエコスタイル」に掲載されました。

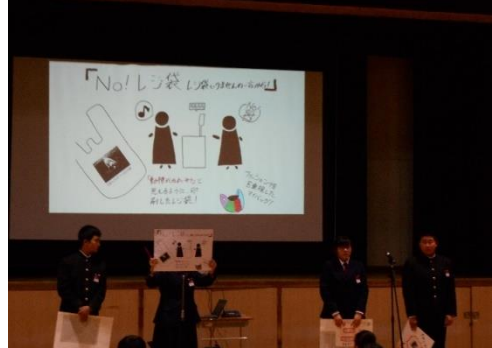
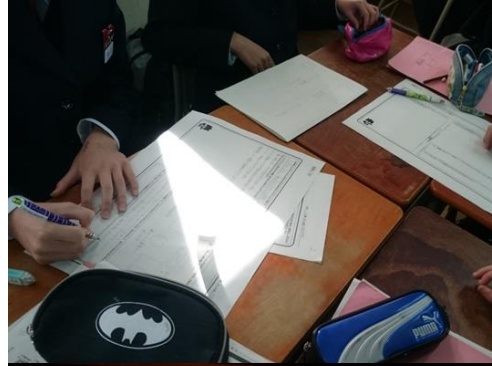
(参考：<http://naniwa-ecostyle.net/index.php/report/258/1-36>)

パワー・オブ・イノベーション2018

(実施時期：2018年3月21日～23日 主催：(株)教育と探求社)

全国から集まった中学生・高校生・高専生が企業の取り組みを通じてリアルな社会課題を解決していく、3日間の合宿型チャレンジプロジェクトです。子供たちは企業人から現実の課題について講義を聞き、その後、課題を解決するために与えられたミッションに対して、未来を切り拓くアイデアをチームで考え、それを革新的な企画にします。

エコスタイルは、2回目の協賛となりました。本年度は「再生可能エネルギーを使って社会課題を解決せよ!」というミッションを提示し、解決へのヒントとなるような技術紹介としてバイオガス発電を紹介いたしました。3日目の最終発表の場では、エコスタイルの担当からは8組が報告を行い、代表を1組選出。そのセカンドステージでは協賛4社の代表が参加者全員の前でプレゼンを実施し、エコスタイル代表は準グランプリを獲得しました。





第17回エデュケーションチャレンジ

(実施時期：2017年7月25日 主催：日本経済新聞社)

高校生を対象に、経済社会の動きやイノベーション事例を伝えるキャリア教育プログラムで、社会の第一線で働く企業人が「先生」となり、自らの仕事を題材に現実の企業活動や経済の仕組み、社会を改革する力をリアルに語る「生きた授業」を行います。3回目の協賛となった今回は、代表取締役社長自らが講師を務め、「ベンチャー企業が世の中を変える」とテーマに講義を行いました。

講義中にはワークショップも行い、木下が考える「成果への方程式（成果＝思い＋考え方＋仲間＋能力）」について高校生に問いかけをしたりもしました。高校生からは、「社長自身が仕事を心から楽しんでやっているのが伝わった。プレゼンもわかりやすく、心を動かされた。」等の前向きな感想が多数寄せられました。

職場体験

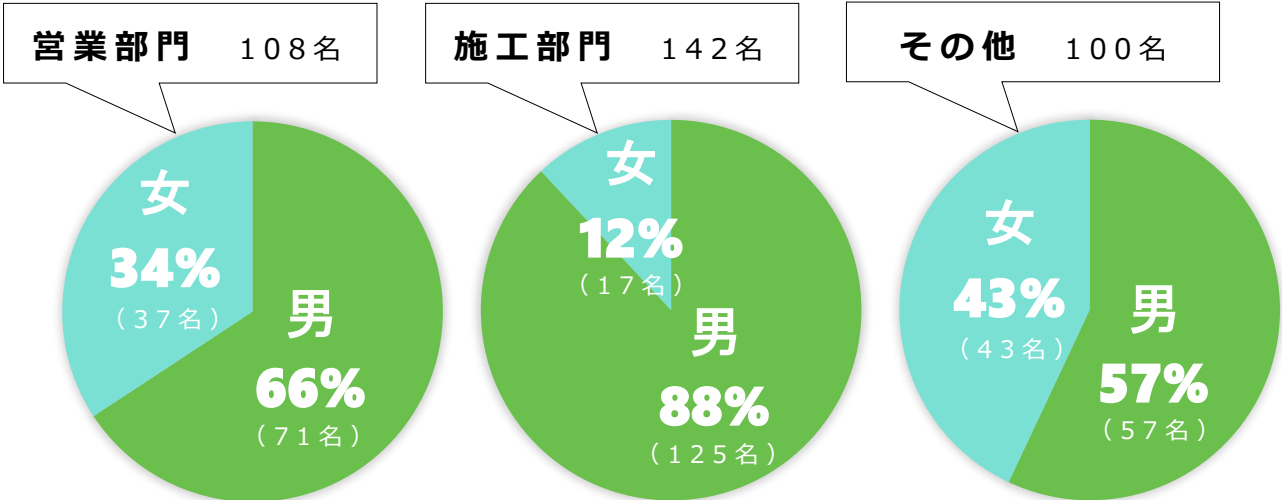
(実施時期：2017年7月6日・7日)

大阪府内の中学校からご依頼頂き、職場体験の受け入れを初めて行いました。今回の対象者は2年生の生徒4名で、大阪本社オフィス内にて実施。学生たちに「仕事を実際に体験して働く意味を考えるきっかけ作りをする」ことを目的として、今回は「エコスタイル特別社員」として、社内報「エコび」の作成業務を体験して頂きました。社内報を作成するにあたり、弊社の事業内容説明や役職者へのインタビューを行っていただきました。他にも、名刺交換練習体験を行いました。

ダイバーシティの推進

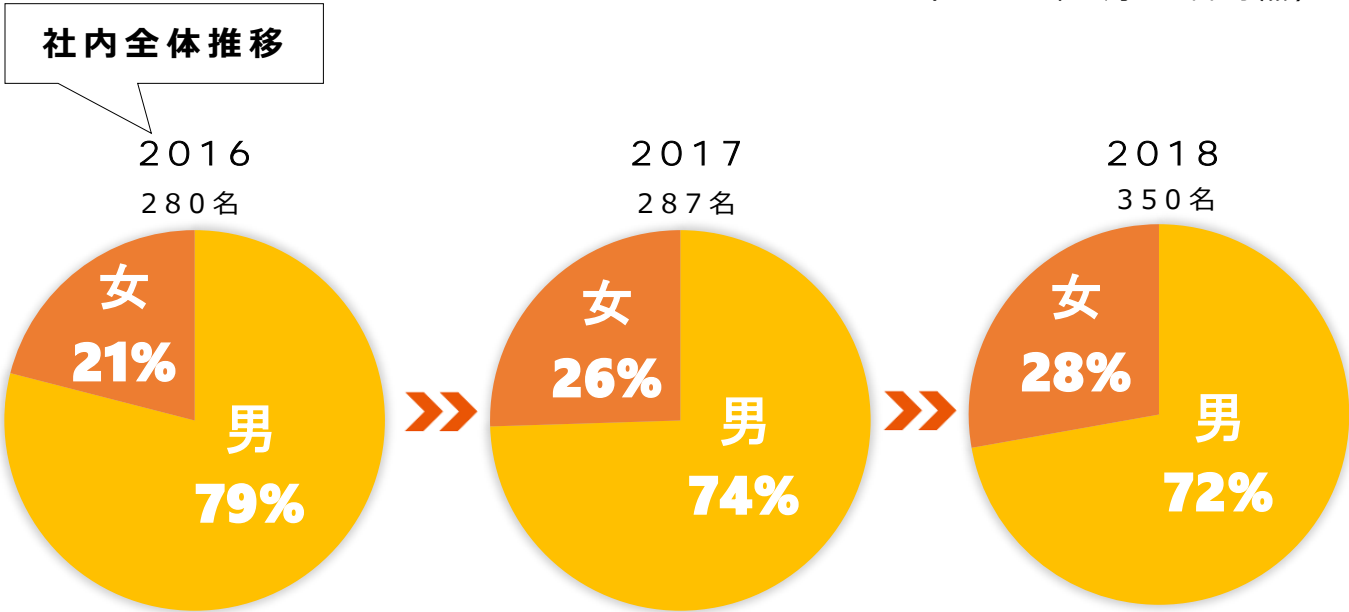
事業の拡大とともに社員数も急増してきたエコスタイル。多様な人材が価値観を共有し、切磋琢磨しながら挑戦をしていくことが企業の成長に繋がると考えています。

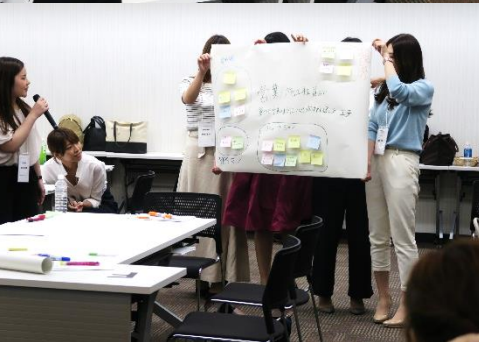
女性のキャリア形成と就労継続を目標に女性従業員がやりがいを持って生き生きと働くことができる職場環境、引いては社員全員がより安心して働ける会社を目指します。



	男	女	男	女	男	女
課長以上	13名	0名	11名	0名	23名	2名
	12%	0%	8%	0%	23%	2%
主任クラス	10名	6名	18名	0名	4名	7名
	9%	5%	13%	0%	4%	7%

(2018年3月31日時点)





部活動制度

社員同士がより良い関係を築くことを目的とし、2016年度にスタートした「部活動制度」。2年目を迎えた2017年度には、新たに4つ発足し、計8つの部となりました。運動系の部活動だけでなく、英会話という教養的な活動も承認されています。

女性フォーラム開催

エコスタイルには様々な経験・キャリア、ライフステージの変化を迎える社員が在籍していますが、その様な社員が活躍できる会社にするためには、まだまだ多くの課題があります。働き方に対する考え方は人それぞれではありますが、中でも女性は“ライフイベントによって働き方の影響を受けやすい”とも言われており、男性社員が中心となって成長してきたエコスタイルでも「女性社員はサポート役」というような風潮がありました。しかし、会社としてより成長するためには、男女共に様々な社員が活躍できる会社にしていく必要があります、その第一歩として、「女性社員はサポート役」という固定概念を変えていかなければいけません。そこで、「もっと女性社員の声を聞こう」「様々な可能性があることを知ってもらいたい」という想いから『女性フォーラム』を開催いたしました。

普段は支店間で離れている同業務担当者で集まったの情報共有会や様々な業務担当者を交えての意見交換会、外部講師を招いての特別講演を行いました。

気遣い 気配り 思いやり	整理整頓	報連相
コミュニケーション	より良い 職場環境 をつくるため	挨拶
笑顔 雰囲気作り	感謝の 気持ち 謙虚さ	情報共有

(意見交換会で実施したマンドラート)

今後の取り組み

CSR基本方針を策定のち4年目を迎える2018年度もこれまで同様、事業活動を通じた「再生可能エネルギーの普及・促進」に加え、「環境教育」の充実を図ります。これまで参加したイベントに加え、おひさまっこプロジェクトを通して幼児へのワークショップの提供を目指します。エコスタイルでは、CSR活動を通して「エコの輪をひろげよう！」プロジェクトを進めます。

また、女性社員数の増加も受け、さらなる女性活躍推進に向け社内制度の整備や取り組みを含め「良い会社プロジェクト」として社員全員が働きやすい職場環境づくりにも取り組んでまいります。



会社概要

会社名	株式会社エコスタイル	事業内容	産業用太陽光発電システム販売・施工・メンテナンス 家庭用太陽光発電システム販売・施工・メンテナンス 電力小売事業 再生可能エネルギー発電事業 再生可能エネルギーファンド組成募集事業 損害保険代理業務
会社設立	2004年10月5日	売上高	10,194 百万円 ※2018年（平成30年）3月期
資本金	605百万円	加盟会員	太陽光発電協会 会員 自然エネルギー協議会 準会員 日経BP環境経営フォーラム 特別会員 宅地建物取引業協会 会員 全国宅地建物取引業保証協会 会員 不動産流通機構 会員 第二種金融商品取引業協会 会員 日本卸電力取引所 取引会員 電力広域的運営推進機関 取引会員 東京商工会議所 会員 大阪商工会議所 会員 日本太陽エネルギー学会 会員 Japan-CLP 賛助会員
代表取締役社長	木下 公貴（きのした まさたか）		
従業員数	370 名（2018 年6 月1 日現在）		
東京本社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 丸の内永楽ビルディング20階		
大阪本社	〒541-0045 大阪府大阪市中央区道修町1丁目4番6 号ミフネ道修町ビル3階		



お問い合わせ先

- ・ 株式会社エコスタイル （担当部署：経営企画部）
- ・ 所在地：〒541-0045 大阪府大阪市中央区道修町1丁目4番6号
- ・ メール：kikaku@eco-st.co.jp
- ・ U R L： <http://www.eco-st.co.jp/>

